

# 評価結果報告書

## 地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	1473100921
法人名	社会福祉法人 大富福祉会
事業所名	グループホーム ソフィアライフ
訪問調査日	平成19年11月19日
評価確定日	平成20年1月17日
評価機関名	社団法人かながわ福祉サービス振興会

### 項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

### 記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

### 用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みません。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成20年1月25日

## 【評価実施概要】

事業所番号	1473100921		
法人名	社会福祉法人 大富福祉会		
事業所名	グループホーム ソフィアライフ		
所在地 (電話番号)	神奈川県横浜市港南区下永谷3-17-10 (電話) 045-820-2561		
評価機関名	社団法人かながわ福祉サービス振興会		
所在地	横浜市中区本町2-10 横浜大栄ビル8階		
訪問調査日	平成19年11月19日	評価確定日	平成20年1月17日

## 【情報提供票より】(19年9月30日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成17年3月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	28 人	常勤 5人, 非常勤23人, 常勤換算16.4人	

### (2) 建物概要

建物構造	木造 鉄板葺き 造り 2階建ての1階～2階部分
------	----------------------------

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	60,000 円	その他の経費(月額)	46,000 円
敷金	有( ) 円) (無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	(有)300,000円) 無	有りの場合 償却の有無	(有) 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	月額 32,000 円		

### (4) 利用者の概要(9月30日現在)

利用者人数	17 名	男性	2 名	女性	15 名
要介護1	5 名	要介護2	1 名		
要介護3	7 名	要介護4	2 名		
要介護5	2 名	要支援2			
年齢	平均 82.1 歳	最低 58 歳	最高	102 歳	

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	堀越医院・朝倉病院・磯子中央病院・愛希整形外科・ないとうクリニック
---------	-----------------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

<p>このホームは、横浜市営地下鉄下永谷駅から徒歩10分の、幹線道路から少し奥まった閑静な住宅地に立地する落ち着いたホームである。隣接する広い駐車場の一角に足湯の設備を新しく設置し、入居者や家族、近隣の方々との交流の場となることが期待されている。</p> <p>管理者は看護師で、その他にも各フロアに看護師を配置している。また、内科、歯科、精神科、皮膚科、泌尿器科の往診が受けられ、医療連携体制は整備されている。</p> <p>職員のオリエンテーションや内部研修に力を注ぎ、各職員の仕事に対する意欲向上と介護技術の底上げを図っている。</p> <p>利用者はやさしいスタッフにかこまれ、穏やかに健やかに暮らしている。</p>
--

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>過去2回の評価での改善課題は全て改善済みである。また、運営推進会議で報告している。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>評価の意義やねらいは会議で話し合った。自己評価票はパートも含め全職員に配布して記入し、ユニット長と管理者でまとめたもので、全員の意見が反映されている。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>運営推進会議の主な議題は、グループホームの実績報告、外部評価の結果報告、医療機関の緊急時対応、地域防災などである。参加メンバーは、入居者の家族2名、町内会会長、知見者としてクリニック医師、地域包括支援センター職員とグループホーム管理者およびケアマネジャーである。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>家族の来訪時などには、職員は家族の意見や要望があれば真剣に受け止め、ただちにリーダーに伝えて、議論し質の向上につなげている。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>自治会に加入し夏祭りなどの行事を手伝い、参加している。グループホームの納涼祭には地域の方々にも声をかけ交流をしている。地域との連携を深めるために、運営推進会議の委員からアドバイスを得ながら、地域活動や地域行事にさらに積極的に取り組んでいく方針である。</p>

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「愛のある生活と利用者の尊厳を大切に」「利用者、職員、家族、地域住民と協力し、なじみの生活を継続する」という、地域生活の継続を支える役割を目指した内容の、独自の理念をつくりあげている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は、職員には入職時のオリエンテーションで説明し、事務室に掲出している。毎月の座談会、内部研修、個人面談の際に、管理者と職員間で理念について話し合う機会も多くあり、意識づけがなされている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し回覧板を廻して、近隣の方と交流している。地域の行事には、夏祭りの盆踊りなどに手伝いをして参加している。グループホームの納涼祭に地域の方々も招待し、交流に努めている。今後は運営推進委員の意見も参考にして、地域活動、行事にさらに積極的に取り組みたい意向を持っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価、外部評価を実施する意義やねらいを、管理者と職員で話し合った。自己評価票をコピーして全員に配布し、記入したものをリーダーがまとめた。これまでの評価での課題にはすべて取り組んで改善済みで、運営推進会議にも報告を済ませている。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2回開催済みである。議題は、グループホームの実績、外部評価の結果、医療機関の緊急時対応、地域防災などで、報告と意見交換をしている。参加メンバーは入居者家族2名、町内会会長、知見者としてクリニック医師、地域包括支援センター職員、グループホーム管理者及びケアマネジャーである。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	区の担当者及び地域包括支援センター職員とは連絡し行き来をする機会が多い。今年度から区内グループホーム連絡会が始まり、行政からの連絡事項やグループホーム同士の情報交換をして質の向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の来訪時に利用者の日頃の暮らしぶりや健康状態を報告している。行事や誕生日、習字教室、麻雀クラブなどの様子は、年4回発行するソフィアだよりのスナップ写真で知らせている。金銭については入居者毎の出納帳に記録しており、1頁の記入が終わると、レシートを添付して家族に送付している。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	職員には家族が意見や不満を言いやすい雰囲気で作るように伝えている。家族の意見は職員会議で議論し、サービスの質の向上につなげている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動による利用者へのダメージを最小限に抑えるためにも、法人内の異動は極力少なくしている。退職を抑えるため充実した職場となるよう内部研修に力を入れている。常勤職員が進学のため退職したが、馴染みの利用者のため、しばらくパートで勤務を継続してくれた例もある。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の採用は資格よりも性格や適性を重視しており、研修には力を入れている。職員を外部研修に計画的に参加させており、職員は毎月の内部研修で研修内容を報告して、職員間で共有している。介護技術は、ベテランが付き添い現場でトレーニングをしている。認知症に関する外部研修の受講者が多いのが特色である。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	区内グループホーム連絡会では9つのグループホームの管理者と区の職員4名で、2ヶ月に1回情報交換をしている。そのほかに運営推進会議の報告、勉強会、交換研修などを通じサービスの質の向上に努めている。特養・特定施設のケアマネジャーの会では、ケアプランや認知症の勉強会を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>利用前に本人および家族に見学してもらい、サービス内容も丁寧に説明する。診断書やサマリーも参考にして詳細なアセスメントを作成して、ニーズに合ったサービスを提供するようにしている。本人が早く雰囲気馴染めるよう見守りや声かけにも特段の配慮をし、家族と連携しながら工夫している。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>利用者の経験を尊重し、職員から声かけて学び合う仕組みを築いている。料理や盛り付けの上手な方にはお手伝いをお願いし、お礼を言う。若い職員は、和裁の達人の利用者に雑巾などの縫い方を教えてもらいながら、良好な関係を作っている。</p>		
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>利用者との日頃の雑談の中から、「どうしたいのか、何をしたいのか」の把握に努めている。利用者の誕生日には、デパートに行く、夜景を見に行くなど本人の希望に沿ってお祝いしている。希望を表現しづらい方には職員が2~3例をあげ、選択してもらっている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>職員はパートも含め全員でアセスメントを作成し、本人と家族の意見や要望も聞いて、計画作成担当者がそれらを反映した介護計画を作成する。その上で家族に説明し、了解を得ている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>フロア一隅の机の上のカーデックスに、利用者別に1日の時間帯毎の援助内容や様子、食事・水分量、バイタルチェック、服薬、入浴状況などが記録され収められている。毎日のケース記録は1ヶ月がまとめて総括され、介護計画の見直しの資料として活用されている。介護計画は通常6ヶ月毎に見直しをしている。入院や急変時にはその都度見直しをしている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	骨折で入院を要する場合でも、家族の要望により、整形外科医、内科医、看護師が連携をとって、ホームで医療、介護を行い全治した事例もある。 毎月1回訪問リハビリがあり、理学療法士の月ごとの指導項目に従い毎日訓練をして、リハビリ表に記録をし、効果をあげている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者及び家族の要望により、内科、歯科、精神科、皮膚科、泌尿器科が往診をしてくれている。整形外科は外来受診をしている。利用前からのかかりつけ医は利用者4名が受診しており、通院介助は家族にお願いしているが、医療情報は共有している。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ターミナルケアの実施例があり、家族、医師、看護師、職員などが繰り返し話し合いをし、方針を共有している。ターミナルケアについてのマニュアルもあり、研修も3回開催した。看取りに関する指針および同意書も用意されている。		
<b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1) 一人ひとりの尊重</b>					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	介護や誘導の際に声かけをする時は、慣れからくる失礼のないように言葉使いや態度に注意をしている。毎日の資料や記録等は、フロアのカーデックスに整然と収納されている。まとめたファイル類は事務室の書棚に整理されて格納され、個人情報は丁寧に扱われている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	朝は、6時に起きる方もいれば、9時頃まで寝ている方もいる。遅い朝食を一人で食べることもある。タバコを吸う方には、職員が見守りながら、1日2~3本を支援している。利用者一人ひとりの嗜好やペースに合わせて、楽しく過ごせるように工夫をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理を手伝ったり配膳をする利用者もいる。BGMが流れる中、今日の出来事をさりげなく会話をしながら食事をしている。食事前にアゴの運動や早口言葉を言い合って、間違っっては笑い合っている。家族団らんの風景のような雰囲気がある。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は週に2～3回の方が多いが、臨機応変に対応しており、希望すれば自由に入れる。朝か午後に入っており、夕方から夜間を希望する方はいない。入浴しながら利用者には声かけをしたり、タイミングをみてゆっくり説得をしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	書道、オカリナ、ギター演奏、お話しなどはボランティアと一緒に楽しんでいる。麻雀、カラオケ、ゲーム、ビデオ鑑賞を楽しみにしている方もいる。雑巾縫いやお菓子作りを生き活きと行っている方もいる。料理、食器拭き、掃除、洗濯物たたみを役割とするなど、利用者に応じて支援している。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日頃は近所へ散歩に出たり、スーパーへ買い物に行ったりしている。歩行が不自由な方は庭で花を見て外気浴をしたり、お茶飲みをする。誕生日には、本人、家族の要望を聞いてデパートへ行ったり、ドライブしたり、夜景を見に行くなど、本人が行きたい場所に出かけるという支援をしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関の鍵をかけていない。利用者の行動の傾向を把握し、見守り・声かけをして、安全に目配りしている。職員が持ち場を離れる時は必ず他の職員に伝え、確認してから離れることを励行している。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力を得て、防災訓練を年2回実施している。利用者は職員に誘導され、避難訓練に参加している。地域との連携や協力については、町内会長を通じ依頼している。非常用の食料や備品は準備されていない。		災害時に備えて、非常用の食料や備品を準備することが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は法人内の管理栄養士がカロリーや栄養素を勘案して作成している。食事は1日1200～1300キロカロリーとしている。飲み物は何種類も用意し水分摂取量が確保できるよう工夫している。食事は体重管理記録により調整している。医師から指示のある人や不安な人は食事・水分摂取量を記録している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関は広くゆったりとし、ガラス窓が大きく、光が多く入り明るい。花が飾られ、お香がたかれ、季節感や爽快感が溢れていて快適である。廊下の棚には金魚が飼われ、壁面には利用者の貼り絵や習字の作品、行事の写真等が飾られ家庭的である。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の居室には、使い慣れたタンス、鏡台、テレビ、ベッドや仏壇などが持ち込まれている。家具などは、利用者と家族が配置している。居室は、本人の習字や貼り絵、家族の写真などに囲まれ、安心して過ごせる場所となっている。		



# 自己評価票

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目の や 等)から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

## 地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
・理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
・安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
・サービスの成果に関する項目	13
合計	100

## 記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

## 用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## 評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目( 1から 87)とサービスの成果(アウトカム)の項目( 88から 100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	社会福祉法人 大富福祉会 グループホーム ソフィアライフ
(ユニット名)	さくら
所在地 (県・市町村名)	神奈川県横浜市港南区下永谷3-17-10
記入者名 (フロアリーダー)	竹 衛 宗 彦(他 スタッフ 9名)
記入日	平成 19年 10月 日

# 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>			
<b>1. 理念と共有</b>			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	2人	理念を再検討する場ももうけ実行している
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>		
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>		
<b>2. 地域との支えあい</b>			
4	<p>隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	2人	立ち寄ってはまだ取り組めていない 隣近所こそ大切 個人的に幅広くお付き合いしている オカリナ演奏にソフィアに来所していただけた
5	<p>地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	5人	地域のコミュニティルームへの参加を検討中 老人会の催し物に参加できればよいと思う(体調によるが) 地域交流は課題

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6 事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	入居者、関係者だけでなく、近所の方の相談ができるような体制をとっている 講習会を開催し地域の方の参加を促している	1人	今後も介護、福祉に関する情報発進の場となるように努力していく
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7 評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価や課題に対して全体会議、職員会議等を通じて職員が話し合いをしている 各スタッフが自己評価作成に取り組み意義を理解している 内部研修・座談会などありとてもいいと思う もっと参加できる様にしたい	1人	課題点を次回(今回)までに修正できるよう努力(推進委員会等)している
8 運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度開催		
9 市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	県・市・社協等の講習に定期的に参加している		
10 権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	地域福祉権利擁護、成年後見制度の講習に参加 内部研修にて発表を行っている		
11 虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束委員会を設置 毎月報告を行っている 常に入居者もスタッフも不満や不安ストレスをためない様努めると虐待はあり得ない 注意・防止に取り組んでいる	1人	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p> <p>契約前に事前に家族と話しをしている 又解約の際も家族の納得いくように対応している 管理者がしっかり行っている</p>		
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p> <p>ホームに意見があれば随時会議等で対応している 不穏時の対応 不満を爆発される 適時対応して切替えている 必ず緩慢なかつ 智恵で</p>		
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p> <p>ケース会議や来所持に報告する以外にも「ソフィアだより」(年4回発行、暮らしぶりの分かる写真入り)や手紙等を通じて家族への報告は細めに行っている 随時・適時 家族に報告している(暮らしぶり、健康、金銭管理等) 健康状態については個々に 適した対応している</p>	2人	<p>家族会が無い代わりに家族参加の行事をより一層充実させていく 金銭についてはこれから入所される方は家族へ説明し、明確な手段を決めて欲しい</p>
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p> <p>家族へも評価を依頼し率直な意見を貰っている ケース会議や面会時を利用して聞くように心掛けている スタッフと家族が来所・面会された際の話等でホームに意見があれば、その都度対応している 利用者の普段の暮らしぶりを話す 家族の意見はリーダーに伝達している 不満は聞いたことがない 苦情はない</p>		
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p> <p>毎月職員会議・フロア座談会、2ヶ月に1度内部研修を通じて意見の場を作っている</p>		
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p> <p>フリー勤務や(ケアが必要な)時間に合わせた勤務など適宜話し合い勤務調整が行えている 利用者の状況の変化時は柔軟な対応をしている 管理者に相談も必ずしている ま ず行動あるのみ</p>	1人	
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p> <p>離職を抑えるためにスタッフの意見を聞きながら勤務にあたってもらっている 離職率が小さいので常に顔なじみであるし、1人のスタッフは日中ほとんど勤務している のでこの点安心</p>	1人	<p>意見の統一、技術の統一を今後も更に努力をしていく 必要がある</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
19 職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修の場を作りスタッフ全員が成長できる場を作っている 研修の実施やスタッフ間でのアドバイスもあって育成されている	2人	内部研修の内容を定期的に見直していき、その都度合ったものを行っていく必要はあると思う
20 同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内勉強会やGH交換研修等、研修には積極的である		
21 職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	個人面談の場を作っている 休憩の際は事務所で過せる	1人	今後も意見が言える場を作っていけるようにしていくべきであると思う
22 向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	これからの自分の未来を考えつつ今自分がしなければならない事等を考え向上心につなげる	1人	
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23 初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	定期的にケース会議を行う それに伴い本人からも意見を聞いて生活に活かせる様努力している 傾聴する様に日々努めている 入浴介助の機会を利用し、本人の現在の気持ち・希望等を聞きだすようにしている	1人	ご自身の気持ちをうまく表現できない利用者に対してはこちらから言葉を沢山なげ掛けご本人の希望に沿う事が出来る様に心掛けたい
24 初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族への初期相談はしっかり行いアセスメントツールを作って反映させている 自分で即答出来ない時は更めてご説明する旨伝え、担当者へ連絡し即日及び近日中にお話して貰っている		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	2人	1年間で見直しであったケアプランを6ヶ月に短縮している すぐに家族との連絡をとり優先すべきことは何かを誘導して行きたい
26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	3人	利用者の性格にもよると思うがこちらをお手伝いするので代わりにお手伝いして欲しい等という事がうまく運びと良いと思う 必要なことは「言葉」感謝の思いをこちらが心から伝えさせて頂く事
28	<p>本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている</p>	1人	
29	<p>本人と家族のよりよい関係に向けた支援</p> <p>これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している</p>	3人	家族が面会に見えた時本人の目の前で職員と家族が笑顔で言葉を交わす事によりご本人も安心感が得られると思うのでそうしたい 丁寧な言動に努めている これからも続ける。これで良いはない 向上のみ
30	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	1人	新聞やテレビで情報を得る様アンテナを張っていたい
31	<p>利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている</p>	1人	形にはめない考えで「大丈夫ですよ～」とこちらが中立に立場で謝りしっかり受け止めて受け入れる

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32 関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている		1人	サービス終了まではしっかりとした対応が行えているがその後の状況を知れていないので検討必要では
<b>. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>			
1. 一人ひとりの把握			
33 思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	出来る限り本人の希望・要望に応じるように努めている 努めている まだ始めたばかりですが一人ひとりを良く分かり早く把握したいと思う 一人ひとりの思いや暮らしの希望等生活の中での本人との会話でなるべく引き出す様にしている 雑談の中から本人の希望している事を探るよう心掛けている	1人	
34 これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	個人カルテにより把握し共有している 上手くコミュニケーションを図り、今までの話などをよく聞きこれからにつなげたい生活歴、馴染みの暮らし、その人一人にあったプラン等実行している(体操・書道) 雑談の中から本人の希望している事を探るよう心掛けている	1人	
35 暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	全てを把握している 毎日の暮らしから心身の状態を把握している 職員同士で情報を交換し合っている	1人	心身状態がわかりにくい利用者には声掛けする回数を増やしているがもっと関わりを密に濃くしていきたい
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36 チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	スタッフ間でも話し合う場を持ち課題をクリアし意見を反映している		
37 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	その適時ケアプランを作成している		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日誌の記入方法も常に検討していきながら入居者の情報が共有できるように日々努力出来ている 個別のケース記録は24時間体制情報を共有しながら(特に職員交代時利用者の特変事項を送りを含む)見直しに活かし、利用者が安心して生活を送れるようにしている 状況説明し共有しながら実践し皆同じ状態でない事個々への対応に合うスキルアップをしている	2人	誰が関わってもしっかりと情報が記入できる日誌の記入方法を考えていく 記録は限られた部分があるので伝達多く口頭での伝授していただいている
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	パラダイム・コモンズがあることで、柔軟な支援が可能となった 要望に応じるように努めている	1人	
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	消防署の協力による定期的な避難訓練の実施 ボランティアの受け入れ 書道・オカリナ演奏等 理解していない	1人	防災関係についても地域との話し合いが必要であり運営推進委員を活かしていきたい
41 他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	体調、ケアの必要性に応じて必要なケアが行えるように他事業者と話し合いが出来ている ボランティア 習字を実施している		
42 地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している			
43 かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	精神科・内科・皮膚科・歯科等必要な医療が受けられている 医療体制の実施あり かかりつけ医のもとへは定期受診を、家族同行の上行っている	2人	緊急対応時 家族と話し合い管理者と連絡をとりつつ適時行動している



項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	定期的に精神科Dr.に往診してもらいアドバイスが受けられている		
45 看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	各フロアに看護職が配置され相談・処置・管理・活用が(気軽に)行えている 管理者が看護師なので常に相談できる 利用者・職員共安心して過せている 看護職員もケアに加わり、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	1人	
46 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	病院にいる間もケアととらえ面会を行っていきながらスムーズに退院後の生活が行える様に出来ている 入院直後の様子が詳細に職員に知らせられ状況が把握できる様になっている		
47 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ターミナルケアを実行し家族・Dr.とスタッフ全員で話し合いをもとにケアできていた スタッフ間では方針は共有している 連絡ノート等に逐一情報が記載されており、職員間の話し合いに於いても方針を把握している体制にある		
48 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	出来る事を見極めていきその後の支援につなげていけるようにケアを行っていた		
49 住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	本人への気配りを行いながら家族の意見を活かし次の場所へスムーズに移動することが出来ていた		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p><b>・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b></p>		
<p>1. その人らしい暮らしの支援</p>		
<p>(1) 一人ひとりの尊重</p>		
<p>50 プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>言葉掛けにも注意をしていながら(自尊心を傷つけないよう)外部へ情報が出ないように心掛けている 記録時は絶対個人名や明らかにその人と分かるようなことはしていない(イニシャル表示など) プライバシーの保護は必須です ファイルで管理し、利用者の目に入らない様工夫をしている 利用者の経歴・家族・友人関係等の把握、日常生活の様子をベースに一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉掛けや対応等に充分注意しケアをしている</p>	<p>3人 慣れから来る失礼な言動にならない様常に反省をすることを心掛けたい</p>
<p>51 利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>本人の出来る、事したい事を考え実行してもらえるように努力している 得意なものや趣味的なものを個々にやって頂いている ICFの理論 Yes,Noで答えられる質問ではなく声掛けをし、無理なく思いを伝えて頂ける様に心掛けている 本人の思い希望を日常会話の中から接し感じ取り、その度本人の受け取り易い説明をしている 買物に行きたいとの希望があればその為に歩く練習をと、リハビリに誘導したりしている 対話を重ね自発誘導ではなく見守り誘導</p>	<p>4人 体調に合わせて持続的に一人一人が出来る事がみつけれられるとよい 心から決めて頂いた行動などどんな小さな事でも「ありがとうございます」と伝える</p>
<p>52 日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>日々の生活を入居者と考えながら過せている その日の体調・気分を考えた上で支援している 常に会話傾聴に心掛け、本人の都合優先に心掛けている 散歩や買物等の声掛けをし、フロアに残った方には料理の声掛けをする等希望を必ず聞く 無理強いはいしない 居室で食事をしたいとおっしゃる方には皆と食べたくなる声かけをしそれでも本人の意思が変わらない場合は希望に合わせる 1日の流れの中で個人の動きの大切さも必要 1人きりではなく1人静かなひとときも大切と思い接している</p>	<p>3人 居室で1人の時間お過ごしの時も必ず声掛けする～続ける</p>
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>		
<p>53 身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>家族の協力の下に本人の望む店に行ける様に努めている 美容師の資格を持っているスタッフがその人の好みを取り入れてカット、カラー等行っている その人らしい服装をされているので厚さ重ね着時ゆるやかな声掛けをしている 身だしなみや、おしゃれは、着替えの時、相談にのったり、寒い日等もう1枚着る様に声掛けをしている 服装は自由であり、施設での洗濯により清潔な衣類の着用 ひげの生える利用者に入浴時剃刀にてそり、声掛けしブラッシング等(朝起きた時)に行く</p>	<p>5人 本人が望む店には行っていないが、職員(美容師)が本人の希望する時に身だしなみやおしゃれの協力をする事が出来ている 美容院等の雰囲気を楽しんで頂くのも良いかもしれない 個人的な希望がある場合は、家族と相談して行ける様にしたい</p>
<p>54 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>毎食、声掛けをし 入居者と一緒に食事の準備から片付けまで出来ている 出来る人には無理強いはいしないが手伝って頂いたり、盛り付けが得意な方には依頼したり、自発的に手伝ってくださる 食事と一緒にしている 一番出来ている事の一つGHの良さを共有している 作りながら何が好きか、今度は何がいいか等笑顔で話している 入居者の好みも考えている 日常の会話により「にんにく嫌い・魚が嫌い」等本人の好みを理解しなるべく食べられる様な工夫をしている</p>	<p>4人 外食の充実を図っていききたい 現在男性の利用者にはお茶入れ以外は食事作りに参加して頂くことが滅多に無いので今後声掛けもしてみたいと思う 一緒に作りつつ声掛けし味見もしてもらい感想聞いて共有している</p>
<p>55 本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>タバコ・お酒・おやつ等、本人に合わせて楽しめている おやつ等特に希望のある場合、購入した物など自由に召し上がっていただいている 10時や3時の飲み物等は何種類も用意してあり選んでもらったりしている 楽しめるようおやつ等も(希望を聞く等)支援している 甘いものが苦手な利用者には、甘いおやつの際はお煎餅を出す等個々の好みを理解している お酒？</p>	<p>2人 一緒に準備していただいている</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56 気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄表にて排泄チェックしていきながらスムーズに排泄出来る様努力している パットはしっかりとフィットさせ漏れたり不快感を感じさせない様にしている 夜間リハパン使用でも日中は小さなパットにし、定期的にトイレ誘導しその都度ウォッシュレットを使用し清潔に心掛けている 日々の記録から座談会などでスタッフが話し合いその人に合った対応を考えている 失敗の心配を減らすよう日々努めている 便因の見られる利用者に対してトイレ使用中はあまり頻繁に声掛けをしない様心掛けている	2人	より通常の下着で生活出来るように努力をしていく 排泄に集中して貰う為だがどの時点で声掛けをすれば良いか考えていきたい
57 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週に2～3回以上の入浴の確保とそれ以外でも本人が希望すれば入浴出来る様になっている 拒否がある場合は翌日にしたり希望を聞いている 楽しいような声かけも積極的に行っている 拒否が見られる利用者、体力が午後まで持続出来にくい利用者についてはタイミング良く誘導し入浴して貰っている	1人	時間帯も本人の健康状態に合わせて行っている
58 安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	好きな時に休めるように居室があり休めている 安心できている 部屋の温度に個を使い暑すぎず寒すぎず気配りをする 夜勤帯あまり寝ていない様であれば昼間のちょっとした時間をソファや居室で過ごすよう声掛けをしている 個人個人に応じて居室で休んでいただいている	2人	買物同行や食事作り等お願いすると常に同意して下さる利用者について「本当は休憩したいのではないかな？」と思う事がある 見極めの重要性を強く感じる
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	本人の出来ること・好みを(マージャン、歌、家事、お菓子作り)等を探し本人が輝ける役割を持ってもらっている 雑巾作り等針仕事等している 毎日の買物と一緒に頂いたり食事作りの手伝いをして頂いている 力を発揮できる場を作っている(料理・裁縫・掃除・洗濯・レク等) 書道ボランティアの方に来ていただいて実施 瞬間的でも大きな声で笑う事も大切だと思うので笑いのネタを探すようにしている		散歩・買物・レクリエーション
60 お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持ってもらい好きなもの(花、おかし)を買っている 管理できる人や持っていないと不安な人は所持している 本、仏花、供物等個人的に支払っている為見守っている 個々に合わせ応じている 管理力不足の利用者は施設で預り管理 ホーム食材など買物の支払いの時のみお願いする事がある(入居者本人のお金を自由には使ってもらはない)	2人	お金についてのルールをもう少ししっかりしておくべきであると思う 利用者に応じて、個人の財布を持って一緒に買物に行ったりしているが全員ではない
61 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	外出(買物、散歩等)だけではなく本人の希望で外出できている 食材の買物やホーム前の畑での野菜作り、本を買いたいと希望があると一緒に同行する 毎日支援している 外に畑やゴミ出しに行った際、庭の花を見たり出来るだけゆっくと外の時間を過ごせるようにしている 戸外の散歩回数をもう少し多くしたい	2人	外出先の増加 スタッフの人数により、出かけられる日もある 戸外の外出支援は行っている
62 普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	個別処遇を行っている 外出支援は協力のある家族のみになっている 初詣や桜見物など企画し実行している 家族と一緒に外出される利用者には笑顔で送り出し、又、帰所される事を皆が待っていると協調する	5人	1年の中で、数日しか行えていない(誕生日等) 行事を企画し実施しているが機会は少ないかもしれない 全員でなくとも一泊旅行できたらいいと思う 普段行けない場所への外出は家族の人と行っている

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63 電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望により事務所の電話・FAXにて連絡がとれている 認知が進み何度も何度もいったり、現実的でないものには納得してもらっている 家族へ手紙を書くことも出来ている(スタッフが横につき添い、分からない字など確認しながら本人らしい手紙が書ける様見守り実施) 本人からの申し出があれば(電話は必ずスタッフが間に入り、家族からの希望も考えた上で)支援している	2人	本人の希望があれば家族に電話がいつでもできるように、家族と話し合いが必要と思われる 今後もその様にしたほうが良いと思う 時に応じて電話はかけて頂いているが状況により回線不通にして対応のときもあり
64 家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族、知人が面会に多く来てくれており、長時間いてくれている 知人・友人等からの訪問は家族と連絡を取り希望が叶えられる様努めている いつ面会に見えてもよくフロアや本人の居室等で談話して頂いている 湯茶の接待をしたり、挨拶をしたり、行っている 他利用者家族と外出交流(普段行けない所)の実行はしている 建物の出入口には鍵がかけられていないのでいつでも訪問を受けられる状態でありとてもよいと思う	1人	一人ひとりが行きたい場所 これから聞いてみたい 大切な時間を過ぎて頂いていると思う
(4) 安心と安全を支える支援			
65 身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員を設立し、月に1度検討(有無の確認)出来ている 身体拘束はない 最大限に注意し献身的に努めています	2人	職員全員がしていないと言い切ることが出来る もし拘束に当たるのでは？と疑問に思った時は常勤職員、管理者等に聞きながら対処して生きたい
66 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	入社前に拘束についての話しをしている 又常勤スタッフにより常に気を配っている 取り組んでいる 鍵を掛けない代わり利用者だけにせず職員が持ち場を離れる時は他の職員に必ず伝え、確認後離れる (利用者からかけない限り)鍵をかけていない 一人ひとりの行動の把握が大切 鍵をかけないケアの安全に目配りしている	1人	
67 利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中、夜間共に入居者の場所を把握していきながら巡視(目配り・気配り)・声掛け等行っている 当然のこと 安全に努めている 又危険に関してはヒヤリハット報告においてスタッフで話し合いをしている プライバシーを守りながら、居室により好きな事をしてもらう(レコード鑑賞) 何度か訪室し安全に努めている 夜は少しの物音でも居室を訪ねる様にしている 昼は3~4人体制(夜勤は1人)で所在・様子を把握している	3人	更に緊張感を持って対応して行きたい 目配り 心配り 声掛け
68 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	危険物の保管はホームでしているが常に必要に応じてすぐ用意できる場所にある ADLに応じて考えている 自立の男性には剃刀は所持してもらっている はさみ、針等は希望に応じ渡し使用していただき必ず確認をしている 特にはさみ、カッター等危険を伴う刃物類は本人家族の了解を得て、施設で保管し 必要時、怪我等ない様職員が必ず見守る 安全と思われるものも先々に事故を起こさぬ様に心掛けした方が良いと思う		
69 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	報告書によるスタッフ全員での反省・検討をしている 定期的な防災訓練を行っている (安全・安心と思っていると転倒などの事故があるので) 常に見守りをし、必要に応じて支援出来る距離にいる様心掛けている 転倒・階段の下降時声掛け手をさりげなくタッチしている 研修・会議(座談会、内部研修)等で学び防止に取り組んでいる 正職員に聞いたり観察し学んだことは一人ひとりに合わせて取り組んでいます 服薬については本人、薬、確認しながら飲んでいただいている 必ず3回確認している	2人	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	マニュアルを作成し急変時の対応についても看護師からレクチャーを受けている 看護師がいる為、機械ある毎に手当てしている所を見たり指導は受けている 定期的には行っていない 2月に1度の内部研修等で指導していただいている 急変・事故・応急手当 常にスキルアップに努めている	3人	マニュアルの定期的な見直しが必要 再確認
71 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	訓練を行っている(年2回) 地域とは結びついていない スタッフはホーム近辺の人が多いため協力は得られる	2人	夜間のマニュアルが具体化されていない 地域の援助等 再確認・再把握
72 リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	ケース会議や面会時に常に報告・相談している 入居時にしっかり説明を管理者がしている		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73 体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	日誌に記入していく様にスタッフに意識付けしていている為共有できている 訴えることの出来ない方もいる為常に声かけや様子観察に努め適当な対応をしている 取り組んでいる バイタルチェック・検温 毎日行っている 観察・会話より 常に日々の違いを見極めるように努めている	2人	異変後の対応にてスタッフの不安があがった為再検討中
74 服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬表・内容を記載していくことで全員に理解してもらいながら服薬介助を行ってもらっている 一人ひとりの服薬と効能が一覧表になって(ファイル)スタッフがすぐ見られる所に用意されているので確認できる 様子観察は常に行っている 常に一人ひとり使用している服薬は分かっているが服薬量が多い利用者は分からない薬もある	1人	副作用など あまり自分自身に理解できていないので勉強したい 一人ひとりの薬についての目的が完全に把握されていない面もあるので各ファイルを見て確認していきたい
75 便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排泄表による理解、下剤での調整、水分・食事による調整を行っている 水分補給に努め、献立に根菜が多い 運動にも取り組んでいる Inチェックで1日のトータルを出したり、体操・散歩・買物をしたりしている 時にはウォシュレットの活用 冷たい牛乳を拒否する利用者に対しては、ほんの少し温める等工夫して便秘改善の効果の説明しながら飲んでいただいている		身体を動かす機械は増え実行
76 口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	定期的(毎週水曜)に歯科往診を受けられる環境にあり口腔ケアの重要性を理解できている 歯科衛生士による歯磨き指導 歯磨き、歯間ブラシ使い利用者個々に応じた介助をしている 介助の必要な人には行っている 一人ひとり実行できていない、口腔ケアはこれからもっと力を入れていきたいと思う	6人	内部研修での歯科Dr.の研修 朝晩一人で出来る人は行っているが 昼行っていない人がいるので声掛けする様に促したい 夕食後には徹底して取り組んでいるが、朝昼食後も徹底して取り組みたい 利用者の口腔内の状況が短い日数で改善された 自力で行っている利用者も援助すべき事があるかを見守っていくようにしたい

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77 栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士によるカロリー計算されたレシピがあり体調や体重にあわせた量、形状に変化できている 体重記録管理による食事量の調整 水分摂取の少ない方は水分チェックし好み物を進めて飲水に努めている 記録等に対応している DM 量を少し減らす 胃疾患 少しの塩分の軽減	2人	一人ひとりの栄養バランス・量など個人の状態に応じた支援をしたい
78 感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症のマニュアルがあり 消毒液(次亜水)を使用し(トイレ後毎回)衛生管理をしている 会議等に対応についての研修等があり実行している 帰宅後は手洗いうがいを励行 声掛けしている		
79 食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	衛生管理者がおり又毎日調理器具の消毒を行っている 時期に合わせて生物の摂取を決めている 食材は明日の昼までとし毎日買物に行き新しい食材を使用 (夕食後)調理器具や(毎回)布巾等は消毒している 台所での手拭は使い捨てペーパーを使用 食中毒のマニュアルに従って管理をしている 食材の消費期限・賞味期限をチェックしている	1人	布巾は熱湯消毒し、布巾専用のハンガーに干すようにして行きたい
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり			
80 安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	花・お香・金魚等で飾り、親しみやすくすることや時期に合わせた飾りをご家族が用意してくれている 施設には塀、門が無く花壇があり親しみ易く出入り出来る様工夫されている 常に季節の花が玄関には咲いている(2週間に1度業者が手入れ、毎月花の交換) 花や木があり入りやすく工夫している 玄関内にも花が飾られている 明るい雰囲気である 玄関先の花壇の枯れ花・葉を気付いたら取除いている	1人	2Fベランダ前に花とグリーンを少し増やした 気分転換です
81 居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者が好きな音楽や台所の音(包丁や炒める音)等生活にそった音や光の中で生活できている トイレ等特にスタッフ使用後常に汚れがない様気をつけている 照明で光を調節したり、音も配慮し居心地よくしている 掃除はもちろん季節感のある飾りをしている 花や貼り絵(月見やあじさい等)書道作品・写真を時折利用者の方が見入っていたりするのには良いことだと思う 交通量の多い道路から離れており、比較的静かな環境にあり、フロアの前面はガラス張りで圧迫感が無く二重カーテンにより不快な光が無くトイレは灯の調節が出来全体に快適	1人	私自身は又一段とグリーンを増やして行きたいと思う 心地良く
82 共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファ・テーブル・居室等好みに合わせて居場所を選ぶことが出来職員も把握できている ソファ等でテレビを一緒に観られる様にしたたり、入浴等2人で入れるように取り組んだりしている (余裕のあるフロア)ソファでは、独りになれたり、談話できるようになっている そこに居やすい様な雰囲気作りをしている 職員の声掛けに今ひとつ積極的な返事がない時でも、他の利用者の声掛けにより笑顔が見えることがあるのは好ましいと思う テレビ前のソファの机整理時には花を移動し切花を供えたりした	1人	気の合いそうな利用者同士で助け合って行ける様 利用者のお力を大いに頂きたいと思う これから秋に向けてどんぐりの実で出来た飾りを見つけ飾ろうと思っている

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83 居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前より家族へ伝えておくことで入居時より本人の馴染の物に囲まれて生活することが出来ている タンス・鏡台・仏壇等入所時に持参 本人が居心地よく過ごせる様な工夫がされている 本人と家族がセットされた居室が居心地良く持続出来る様 極端な模様替えはしない様にしている ご家族が見えたらお茶出し(利用者の分も)し居室でゆっくり出来る様な雰囲気作り に努めている(好みが個人の居室に表れている) 充分と思う	2人	居室の掃除をする際ほこり(テレビの裏等)に気を配ってきれいにしようと思う
84 換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	定期的に温度調整が行えており、冬・夏共に適度に外気と変化がないように注意して生活できている 常に気をつけている 毎日の掃除の際・起床後、適時換気し、状況に応じ冷暖房気を使用し配慮をしている 「少し空気の入れ替えをしましょうか？」など声掛けを行い窓を開けたりしている 換気は24時間行っている(エアコンを使用したり、窓を開けたり等) 匂いの気になる居室は換気に気をつけている 朝出勤したら換気のため窓の開放(声掛けし)寒い・暖かい感じることも必要		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85 身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手摺など不足・変更できる場所を検討し、改善し続けている ゆとりあるフロア、バリアフリーになっているし廊下に物は置いていない いつも整理整頓を心掛け、安全に生活できる様に努めている 居室は個室タイプで鍵がかかる(緊急時は外から開ける事が可能)戸は引き戸で事故防止が考慮されている 自立した生活? 安全な環境作りは充分と思う	1人	
86 わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	ICFの研修を行うことでわかる力・出来る力を注意して見つけていける努力をしている 居室のドアに大きく名札を貼ってある トイレ表示等もしている 各利用者が力を発揮できるように(得意分野を把握)料理・裁縫・レク等工夫している		
87 建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	外に洗濯物を干したり入居者と一緒にベランダを使用(布団干し)等行っている 季節の花や目に優しい木々が植えてある 季節等感じられる ベランダは使用していない 建物の外周りは外気浴に使用 庭・花壇・畑等があり、野菜を収穫に行ったり、足湯に入ったり楽しく生活できる様に努めている 精神的・身体的に効果的 ベランダを利用した楽しみはしていない	2人	ベランダにはあまり出ないので布団干しの邪魔にならない様な活用を考えてもよいのか? ベランダのガーデニング等も考えられるが場所も限られていて考慮が必要 今後フロア前のベランダにプランターでも設置?

. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄が をつけた人数です	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	4	ほぼ全ての利用者の
		4	利用者の2/3くらいの
			利用者の1/3くらいの
			ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	10	毎日ある
			数日に1回程度ある
			たまにある
			ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	5	ほぼ全ての利用者が
		4	利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	7	ほぼ全ての利用者が
		3	利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		ほぼ全ての利用者が
		5	利用者の2/3くらいが
		3	利用者の1/3くらいが
		1	ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	8	ほぼ全ての利用者が
		2	利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	8	ほぼ全ての利用者が
		2	利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	7	ほぼ全ての家族と
		3	家族の2/3くらいと
			家族の1/3くらいと
			ほとんどできていない

無記入:2

無記入:1

無記入:1



項 目		最も近い選択肢の左欄に つけてください。		
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	2	ほぼ毎日のように	無記入:2
			数日に1回程度	
		5	たまに	
		1	ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	1	大いに増えている	無記入:5
		4	少しずつ増えている	
			あまり増えていない	
			全くいない	
98	職員は、生き生きと働いている	7	ほぼ全ての職員が	無記入:2
		1	職員の2/3くらいが	
			職員の1/3くらいが	
			ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	3	ほぼ全ての利用者が	無記入:2
		5	利用者の2/3くらいが	
			利用者の1/3くらいが	
			ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	6	ほぼ全ての家族等が	無記入:1
		3	家族等の2/3くらいが	
			家族等の1/3くらいが	
			ほとんどできていない	

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

出来る部分に目を向けて、入居者の生活を支援していく方向は出来てきていると思う。入居者は自分達の生活を楽しんでいると感じている。今後はこれをより一層実行に移していくことに力を入れていきたい。

私個人は福祉に携わる次世代の育成(おこがましいが)を意識してケアをしている。

笑顔を絶やさない様にしている。私も利用者、ご家族の方の笑顔で元気になれたり、力を貰っているので笑顔や元気を大切にしている。

# 自己評価票

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目の や 等)から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

## 地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

## 記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

## 用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## 評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目( 1から 87)とサービスの成果(アウトカム)の項目( 88から 100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	社会福祉法人 大富福祉会 グループホーム ソフィアライフ
(ユニット名)	ばら
所在地 (県・市町村名)	神奈川県横浜市港南区下永谷3-17-10
記入者名	永草千恵(他 スタッフ 12名)
記入日	平成 19年 10月 日

# 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
<b>. 理念に基づく運営</b>				
<b>1. 理念と共有</b>				
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	4人	<p>つくられています。また理念の大切さも管理者よりしっかりと説明を受けて全スタッフが仕事にのぞんでいます</p> <p>施設の特徴をいかした独自の理念を作り上げ職員に浸透</p> <p>利用者、職員等に関わらず同一地域 或いは近隣地域の人々で構成され生活全体に馴染みの暮らしの継続が出来る環境を整えようと知る目的意識と配慮が様々な点でなされている</p> <p>おごそかで、その人らしい依り方の支援、入居者・家族・地域の方々との交流、馴染みの暮らしの創造</p>	<p>足湯施設を利用しながらその人らしさを支援していく</p> <p>足湯が地域住民への接点とサービスとなる</p> <p>豊かさを培う努力をする</p>
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	7人	<p>つい最近も理念について考える時間をとっていただいた</p> <p>管理者、職員一対となり理念を共有、実践に向け日々努力している</p> <p>座談会など機会がある度に管理者より理念の大切さを言われ気に掛けている(情報交換)</p> <p>管理者の理念に向けた日頃の指導・言動の中に職員の末端にまで同じ理想を実現しようとする目的意識が浸透している</p>	<p>今後も定期的に理念に基づいてケアできているが、振り返る時間をとっていただけたらと思う</p> <p>地域の人にはまだですが、利用者・職員・家族と理念を共有し手、実践に向けて取り組んでいる</p> <p>利用者とは理念に向けて日々取り組んでいる</p> <p>理論だけではなく、学習の場を増やしたい</p>
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	2人	<p>地域には運営推進委員会で、家族には入居の際にしっかり伝えている</p> <p>ホームを来訪する家族に対する暖かい接し方(もてなしの方法)が行き届いている</p> <p>納涼祭を綿密な計画の下に実施したり、足湯設置等により家族や地域の人々への配慮が充分伺われる</p> <p>お茶会などでの交流 地域の方々、足湯を利用されている</p>	<p>地域の方々へも徐々に浸透していくと考えている</p>
<b>2. 地域との支えあい</b>				
4	<p>隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	3人	<p>足湯で近隣の方と一緒にいる時は、入居者と共に挨拶するようにしている 買物も近くの生協や花屋を利用し顔を覚えてもらっている 隣近所の人達への顔を合わせた際の挨拶、ゴミ出しの際の声かけ(誰にでも挨拶するようにしている)</p> <p>道行く人と挨拶を交わしたり、足湯で近所の方とお話する機会がある</p> <p>全体的に日常的な付き合いがなされているよう伺っているが、私自身は日が浅くそこまでの付き合いはなされていない</p>	<p>道でお会いしたら、挨拶をしたり、ゴミ出し場に出した時汚れていたら掃除するようにしている</p> <p>気軽に立ち寄っていただけるよう声かけ努力</p>
5	<p>地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	6人	<p>足湯の営業や納涼祭を開くことで少しずつだが地域の方と交流している</p> <p>施設の四季折々の行事を通して交流 足湯においての地元の人々との交流</p> <p>納涼会などで自治会などの方が盆踊りを踊って盛り上げてくださる</p> <p>夏祭等を通して地域に呼び掛けをしている 物品購入や足湯など</p> <p>来訪する人々、届けられる印刷物から交流がなされているように思われる</p>	<p>今後は招く方ではなく、お祭や老人会など参加していけたらと思う</p> <p>まだ気軽に付き合っていないが地域の婦人会で祭には踊りに来てくださる。</p> <p>行事への呼びかけアピール もっと大勢の人に参加を呼びかけ</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	私個人は出来ていないが、管理者が地域の方が見学にいらした時など、アドバイスや相談にのってくれている 内部研修・座談会等を通じて取り組みは積極的に検討し実施できている	1人	是非取り組んでいきたい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価・外部評価が終わった後には、どういった意見があったのかを確認し、共通の認識している。又すぐ出来ることは改善に努めている 今後、具体的改善に活かして生きたい 数日後に評価表がまとまり職員全員で話し合う 全員が理解し実践しているとは言えない	2人	評価する事で利用者の尊厳などの理解が深まる・改善されている
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	第1回目はソフィアを理解して頂くよう資料を使いながら説明している 運営推進会議でなされる討論や対策は意義深いものとする	2人	次回、地域の方からご意見をいただいた時には、積極的に取り組んでいきたいと思う 何事もサービス向上につなげている
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	自分には判断できません どのような取り組みも評価できる	1人	市町村との連携も出来ている
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	今のところ実践していません(自分は) 各地域の福祉事業、成年後見制度に関する理解は必要なので、当然活用に対する支援はなされていると考えている	2人	成年後見制度を利用している利用者がある
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎月行われる職員会議で虐待は無かったか必ず確認をしている 虐待は犯罪であり、当ホームではその理念に添った優れた枠組みの中で個々の意識の中に虐待防止と回避の必要性は全ての者が認識している 内部研修や外部研修が行われている	1人	虐待の防止もされている(雰囲気も良くありえないが、いつも注意は必要である) 多くの研修に全員が参加し、知識を向上できる様になりたい

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
4. 理念を実践するための体制				
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約の際は管理者が、入居後はその都度ご家族の疑問や不安をスタッフ皆が答えるよう努めていると思う(スタッフで判断でないことは管理者に確認しながら)</p> <p>ホームの理念に沿った説明義務が当然尽くされていると考える</p>	2人	契約に十分な説明がある
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>外部へ表す機会はない しかし、ホーム内では利用者の意見がすぐに反映される状態になっていると思う</p> <p>利用者の意見をホームの運営に反映させてこそ充実した生活の場が築けるのであるから管理者を中心とした職員全員が常に利用者の意見を取り入れようとする意思が伺われる</p>	2人	意見も反映されている
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>	<p>行えている 面会の際に報告したり、定期的に頼り(ソフィアだより)を発行し普段の様子を伝えている</p> <p>当然なされていると考える</p>	3人	報告もされている
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>ご家族からの貴重な意見は管理者を通してすぐにケアに反映されている</p> <p>家族からの苦情・要望は伝えられている</p> <p>来訪の際や電話によりコミュニケーションする姿勢が随時に表れている</p>	2人	反映している
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>個人面談の実施又日頃から意見を言いやすい状況を作っていると思う</p> <p>月1回の座談会、隔月の内部研修 個人面談等で職員の意見提案を聞く</p>	2人	職員の意見も聞いてくれる
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>座談会・研修会などで話し合う時間がある</p> <p>伝えていると思う</p>	4人	勤務調整してくれる
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>管理者、常勤は変わらないが、パートスタッフの入れ替りが多かった しかしほとんどがスタッフ側の希望だったので、どちらとも言えない</p> <p>勤務日が浅いが、利用者への配慮した姿勢は随所にみられる</p>	2人	配慮している

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
19 職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修には、積極的に参加させて頂いている 又その成果を全体に伝える機会(内部研修)もあるので、全体のレベルアップになっていると思う 隔月、内部研修日を設けている 研修後は発表する機会があり、他の職員も聞いている 管理者に技術を研くようにとの指導を受け、目下ベテラン職員から随時介護の手段・方法についてトレーニングを受けている	5人	外部の研修会の参加も積極的にされている 研修会がある
20 同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者が積極的に行っている そのような交流も今後サービス向上の一環として行われるであろうと考える	1人	交流の機会を持っている
21 職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員の個人面談を行い、話しを聞いてくれる機会がある どちらともいえない 介助者の立場として9人の利用者を過ごし易い環境におく為の活動を常時行うとすれば、過労働とストレスに繋がる、休憩を意識的に取るよう促されることはそれに対する取り組みとして評価できる	4人	月に1度座談会があり何かと話合いが持てる
22 向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	どちらともいえない 向上心があまりに利用者への配慮に傾きすぎると介護者のストレスや自滅に繋がる 双方の調和が必要	2人	研修会に参加した者を発表させたりしている
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
23 初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会を作り、受けとめる努力をしている	入居前は管理者が、入居後はワーカーが関わりながら情報収集をしている 所長や常勤ワーカーがよく聴く機会をつくり信頼関係を作っている パート職員の私も常に、様子を見ながら親切にしている 話はゆっくり相手のペースに合わせて聞いている。話の内容に合わせて表情を変えている 日々の生活の中で本人の訴え等を受けた時良く聞く努力をし説明して納得して頂ける様に 把握していない(勤務が浅い為)	3人	ワーカーと入居者が1対1でじっくり関わり話を聞く機会を今以上に増やして行きたい 出勤回数が少ない為、出勤時に精一杯対応に取り組んでいる 利用者から不安事などよく聴き対応している
24 初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会を作り、受けとめる努力をしている	入居前に知り得たご家族の思いもケアプランに反映されているのでそこにも注意しながらケアしている 所長や常勤ワーカーがよく聴く機会をつくり信頼関係を作っている パート職員の私も常に、様子を見ながら親切にしている 家族が来たときは挨拶をしてお茶を出したりしているが、ゆっくり話しをしたことはない 各々利用者の家族や個担を交え責任者立会いのもと話合いが持たれている 把握していない(勤務が浅い為)	3人	家族とは、誰とも仲良く対応している 笑顔で対応している

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	毛髪カットの依頼があった時等は期間や順の説明をして納得して頂ける様努めている 個別担当・管理者・家族の話し合う場が設けられている 自分には判断できない 把握していない(勤務が浅い為)	2人	話をよく聞き見守っている 季節に左右されるが外出をもっと多くして行きたい(散歩やお茶)
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	出来る限り入居前に見学に来ていただき、自分の目で施設をみて頂いています 入浴拒否の利用者に対し本人をされる様努める 家族に頼まれている等話本人が安心して入って頂く様に努めている 把握していない(勤務が浅い為)	3人	本人の安心、納得を大切にしている
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	グループホームの主役は入居者にあることを忘れないよう日々ケアしている 又入居者との会話から喜びや学びを多く感じている お茶の時間や昼食時などゆったりいろいろな会話をする機会がある(自分の話しや入居者からためになる話) 出来る事は残存機能を見極め一緒に生活の場としてそれぞれを尊重し本人から学び支えあうような関係を築くよう努力している コミュニケーションを計り利用者との思いやりを築く 共に過しながら毎日の生活の中で必要な衣食住を協力し合い学んだりしながら過している 利用者から学ぶことも沢山あり仕事の励みになっている 私自身親の介護を通じて介護される立場の方は全生活を介助者に委ねることで無言のうちに緒々の事を教えてくれている 2/3ぐらいの職員が行えている	6人	意識は充分いしているが、日によっては業務に追われ入居者がおいてけぼりになることがあるので、そんな日が1日でも少なくなるように努めて行きたい 利用者から学ぶ事も多い 支えあいながら日々を過ごしている 認知ケアの基本を把握し声掛けを学習する
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	納涼祭・クリスマス会・誕生日パーティなど入居者と共に楽しんでいただく機会を作っている 家族の要望・本人の日々の生活の喜怒哀楽を報告共に本人を支える密の関係を確保 家族職員と共に外出等 家族の方も、職員に気さくに話しかけてくれている 家族とは自分が分かる範囲で説明し、本人と一緒に見守って行きたいと思っている 責任者・スタッフ・利用者・家族一緒に本人についての支え方を話し合っている 家族の方と、ゆっくり話したことがない 相当の時間と努力が必要とされるもので、管理者とベテラン職員は到達できている 築いていける様、日々努力している	6人	家族とも輪になり、お互いに安心できる生活をする 本人・家族・職員との外出、ドライブ、小旅行
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	入居者と家族は決して切り離せないものだと思っている 私自身が直接何か取組んだわけではありませんが、施設としては、その点を理解し関わっていると思う 施設での生活近況の報告本人の要望等より良い関係が維持できるよう支援 本人と家族の笑顔が見られるように面会時は心配りをしている 家族の方と、ゆっくり話したことがない 誕生日の時の家族の方の参加や利用者の好きだった事柄の取り組みの支援	6人	より良い関係をしていると考えています
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	こちらから働きかけたりはしていないが面会に来られた時は、ゆっくり過して頂けるよう注意している 誕生会、季節ごとの行事、ドライブ等に誘い共にしている 家族を通して馴染みの人の訪問や場所に行くことをお願いしている 利用者との面会を試みる 夏祭りの時等地元の人達に声掛けや参加の依頼 利用者の個々の事情により色々である	5人	祭などにある家族は、家族はもちろん、今まで世話になったヘルパーさんまで呼んでいる 施設へのボランティアの呼び掛け 納涼祭には家族など来る
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	一人一人の性格にあわせた関わりをサポートしていると思う 利用者同志の関わりに考慮し関わり合い支え合う工夫に努める特にゲーム・歌等 利用者の輪に入って昔話・田舎の話等 お茶の時間やおやつの時間を利用しコミュニケーションを図る 利用者のその時の気持ちを大切に考えて、それなりの関わり方を行っている	7人	「一緒に生活している仲間」という意識を自然な形で持てるような関わりをもう少し出来たらと思う。例えば、皆のために皆で何かを作るなど(強制はしない) 支えあうようにしている 性格の合わない利用者同士の上手なかかわり方

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	<p>関係を断ち切らない取り組み</p> <p>サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている</p> <p>今のところ、そういった方がいなかったように思う ホームの理念や管理者の人柄から当然なされていると考える</p>		
<p><b>・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b></p>			
<p>1. 一人ひとりの把握</p>			
33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p> <p>「本人にとってなにが大切なのか」を入居者の言葉や情報を元に常に1番考えて取り組んでいる その人の思い暮らし方希望意向に沿って把握し努めている本人本位をまず叶え検討する なるべく本人の希望に添えるように努力するが無理なときはしっかり説明して分かって貰える様にしている 個々に趣味や趣向が違うので叶えられるよう話し合う 話合いの場があり検討に努めている</p>	4人	
34	<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p> <p>行っている(入居前の実調で) 事前調査等で把握している 生活歴、馴染にそった暮らし方は生活環境にともなう経過の変化等を重点に一人一人の把握に努める 機会があればいろいろな話を聞いたりして本人の気持ちを大事にしていきたい 入居時に作成された経過等は個人情報としてスタッフは把握出来る様になっている あえて踏み込んだ聞き取りはしない様にしている 自然の会話の中で知り得る事だけで充分 努めているが、全てではない</p>	6人	<p>入居後の聞き取りがもっとできたらと思う。これは現場で働くワーカーの力不足だと私自身感じてしまう パート職員も皆、個別アセスメント表を把握するように指導されている 質の向上を図り、豊かさを身につけたい</p>
35	<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p> <p>入居者の心や体は常に変化していくものだと思っている なので、現状に満足することは無く常にもっと良いケアを目指すように意識している 現状を総合的に把握しその人らしい生活1日の過ごし方に注意、工夫に努めている 本人の希望を優先する ふらつきがある時はいつもよりしっかり支えたりしてしている 連絡ノートや日々の記録ノートを参考に快い1日が送れる様努力する 管理者は把握しているが、職員はごく一部だけが把握しているにすぎない</p>	4人	<p>学習能力の向上</p>
<p>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</p>			
36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p> <p>ケアプランの変更の際は、必ずスタッフ(ほぼ税委員)、ご家族の意見を取り入れて計画が立てられています(もちろん本人もです) 月に一度、座談会を行い意見交換をしている より良く生活できるように課題とケアのあり方関係者との話し合いにより介護計画を作成している 座談会等で話し合っている 管理者と家族、職員が情報交換を行い、介護計画を作成している 職員全員でアセスメントを作成している 個別担当のケース会議に参加する事もあり</p>	6人	<p>パート職員も各人のアセスメント表を提出するように指導されている 計画を理解し職員全体が実践し努力したい</p>
37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p> <p>入院や体調を崩し、大きな変化が見られた時には、現状に合わせたケアの見直しをしている 必要に応じ計画の見直し関係者との話し合い現状に即した新たな計画を作成 職員が皆で気が付いたことを記入し見直し作成協力している 心身状態の変化を見極め新たな計画を検討している 管理者が行っている</p>	5人	<p>介護認定変更届けを出すと共にケアプランの変更もする 個人で計画を作成したりして、学習するのも良い</p>



項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	細かい記録を取りそれを見直すことでケアに生かしていると思う 個別の記録と別にノートを作り・書ききれない部分を記入している なるべく細かく記録するよう努力しています 活動日誌・ケース記録 共有しながら実践し、介護計画を見直し活かしている 日々全員に送りをしている その日の様子が分かる様に記入しいつもと違う事がある時は具体的に記録し申し送りもする	7人	今も取り組んでいるつもりですが、もっと努力が必要とも考えます 良く(細かく)記録がされて、共有している 今後も実践する
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	判断できません(把握できていません) そのときに応じた状況要望を事業所の多機能を活かした柔軟性を持って支援する 利用者が馴染みの生活が出来るように準備し支援している 管理者の介護計画のベースとなる諸々の要望や情報が一点に集約されている	3人	家族も足湯など共に利用している
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	今の時点では判断できないと思う 防災訓練に参加する 支援している	3人	消防訓練時に協力ある。 音楽演奏にボランティアが来る 小学生と交流
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	今の時点では行っていない 支援が出来ているものと考え	3人	今後そういったサービスの必要性があると判断した時には取り入れて行ければ、入居者にとってのケアの幅も広がりより良いケアが提供できると思う リハビリにPTのサービスがある 地域ケアセンターとの交流
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	把握できていない 運営者、管理者の考え方の基本(利用者の為のホーム)からすれば、支援センターとの協働は当然行われているものと考え	1人	力のある所長なので何でも理解出来てしまうが、そうばかりでなく支援等との協働も大切
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族の意見をもとに、入居者にとって1番適切と思われる方法を取っていると思う 往診していただいている先生にも笑顔でお話をしていて、楽しみながら医療を受けている 定期往診やたまに受診などもあり適切な医療を受けている 家族の意向もあると思うが利用者本人も安心して受けている	5人	かかりつけ医が身内の様に利用者に対してくれている

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	月2回精神科Drの往診があり、貴重なご意見を頂き、ケアに活かしている	4人	専門医の往診があり、個別に良く対応して下さっている
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	管理者が看護師なのでより実践的な意見を頂き、それを支援に活かしています。又身体的な変化や認知症の症状の劣化にも迅速な対応が取れていると思う 施設内に日々いるので小さな変化にも対応している	4人	所長が看護師 看護師がいる
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	病院との連携に付いては判断できない しかし利用者に対しては出来る範囲でのサポートをしていると思う(お見舞、メッセージ入りの色紙を持っていくなど)	2人	骨折で入院された利用者が当施設に帰ってくると、みるみる顔色良く元気になって行く
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	お一人ターミナルの方がいらっしゃいますが、その時も話し合いをしながらケアの方針を決めていた 話し合いをしている 家族等の話し合いはスタッフに伝えられていて共有している 管理者を中心とした中核的メンバーで終末期に向けた方針が充分検討され実施されている	5人	今後も避けては通れない問題だと思います。その都度しっかりと話し合いの機会を持ち入居者にとって一番の方法を見つけていけたらと考えています 方針の共有がある
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	管理者を中心に家族、ワーカー、Drの意見を聞きながら支援に取り組んでいると思う 終末期の利用者にしてあげられる事を努力して対応する 例えば身体を清拭し快いを提供する 利用者の「人としての尊厳」の下に介護支援を行っている 重度・終末期の利用者に良い暮らしを送らせる為職員が尊愛の気持ちを持って取り組んでいる	3人	吸引、エアーマット、点滴など出来て、ギリギリまで暮らせるが、肺炎など命に関わる病気になると最後の短期間は無理かと思う
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	努めていると思う 管理者が入居者の状態とご家族の思いを聞きながらアドバイスや話し合いをしてきている ご本人の一番生活し易い場所選び あまり関わった事が無いので分からない 認識していない	2人	ダメージの防止に努めるのが基本である

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p><b>・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b></p>		
<p>1. その人らしい暮らしの支援</p>		
<p>(1) 一人ひとりの尊重</p>		
<p>50 プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>していない 言葉使いは入居者の正確や自分との関わり方で1番ベストと思う言葉、又その状況に応じて変化させ対応している 声掛けは大切な行為だが言葉遣いは注意する 本人のプライバシーや誇りを傷つけないようにその人らしさを尊重し対応している 利用者の今までの歩みを大切に言葉掛けを行っている 一番注意しなければならないことと考える</p>	<p>8人 言葉かけは自分を含め、まだ完璧とは言えないと思うスタッフ同士が注意し合い直していく必要があると思う プライバシーは守られている 自分がかもって言葉の勉強をして利用者への言葉掛けや記録に生かしたい たまに乱暴だったり幼稚だったりするので気を付けた</p>
<p>51 利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>7人 気をつけているつもりだが、一人一人への関わりの深さにバラツキがあり入居者によっては思いを聞いていないと思う 服はどれが良いか等の自己選択できるよう配慮はしているつもり 本人の希望や思いを引き出せるように声かけ納得できるような説明をし自己決定できる体制を作っているよう努めている 説明し納得してもらえらる迄時間を掛け支援している 利用者が急に動いたり声を掛けたりするときは必ず側に行き何がしたいのかを確認するようにしている</p>	<p>全入居者に対して、もっと1対1でも関わる時間を持って行きたい(散歩・リハビリ・レク・他興味あること) 自己決定の支援をしている 利用者の希望が受け取れる様努力が必要</p>
<p>52 日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>5人 基本は入居者の思いを優先に考え支援しているつもり、しかし状況・内容によっては本人の思いを尊重することが本人にとって(-)と感じる時は少しでも不快な思いをせずに職員の言葉を聞いて頂けるよう声かけ等工夫している (利用者の体調なども考えて)本人の希望を優先しているつもり 一人一人のペースに合わせてその日の過ごし方をその人に合わせ希望に沿い支援している 利用者が退屈しない様にどうしたら楽しく過ごすことができるかレク等を利用する工夫</p>	<p>個室に入る利用者は少なく、フロアに出ている人が多い 職員の仕事を効率よく進めもっと利用者の希望に添える様にしたい 不穏な利用者が多くなったりした時は難しいのでこれからの課題とし努力したい 全員で決まったことをやるのではなく、参加したい人は参加して 本人の意思に添ってやっている</p>
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>		
<p>53 身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>8人 カットやカラーはご家族と相談し、美容院に行くか施設で頼むか決めている 服は一緒に選んだり気温に合っていないときは助言するなど一人一人に合わせて行っている 美容師の職員がホームでカットなど行っている 本人の希望に沿った身だしなみ、洋服等の選択、髪型等の要望、化粧品等の買物衣類等は家族が購入してくれるので調和など考慮に入れ身だしなみに気をつける 「さん今日はきれいね」などの言葉がよく聞かれる</p>	<p>自分のことだが、時間が無いと焦ってつい勝手に決めてしまうことがある 今後直して行きたいところ 散髪・髪染めをしてもらう利用者もある 一部の利用者はそれぞれ出来ているが家族の支援がないと難しいので相談して行きたい 洋服の替えも本人の希望を取り入れるようにしている</p>
<p>54 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>8人 片付けは一緒に行くよう気をつけている 最近では入居者の皆さんも「皆でやるもの」という雰囲気があり、仲間意識を感じることもある 準備できる人、料理の好きな人には手伝ってもらっている 食事は皆で楽しみながら食べ、準備や片付けなども利用者のその時の体調などを考え手伝って頂く 朝・昼・夜の食事を利用者で過ごす工夫や準備・片付けも実施 可能な限り一部介助で止め利用者の残存機能を働かせようという意図が全員に行き渡っている</p>	<p>もっと買物やメニュー決め、調理に関われるような工夫をしていけたらと思う。その為には一人一人の認知力・好みをもっと知る必要がある 作ったり・ご飯をよそったり・皿に盛ったり、又片付けもしている 出来れば決められた献立ではなく利用者の食べたい料理を取り込む</p>
<p>55 本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>6人 タバコ・お酒は希望と家族の思いも考慮し量などを決めていく(害にならない様に注意して楽しんで頂く) 飲み物については特に気を使い常に何種類かの飲み物を用意し希望に合わせて飲んでいただくようにしている 日常的に支援 体調に合わせて支援している タバコは利用者が催促した場合、おやつは利用者の好みを聞いて工夫 タバコを吸う利用者には会話のなかでその1本をおいしそうに吸う事を背後から支援している</p>	<p>各人のおやつ・タバコ・飲み物あるが、もっと徹底させたい タバコは1日に2~3本を限度としている 好きな飲み物は希望に応じている</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	本人の希望・思いを聞きながら1番良い方法を考えながら取り組んでいるつもり(パットを使い始めるタイミング・失禁をするため声かけをふやすなど) こまめに声かけするにはしているが、プライドもあると思うので、声をかける人とかけない人がいる 出来る限りトイレ誘導をする 夜間はポータブルも活用している 個々のパターンや習慣を日々の生活の中で把握しその人に合った声かけ行動に合わせた支援を行っている(自立の人には見守りで、失敗のありそうな人には早めの声掛けで対応)	6人	今後どの入居者にも訪れる問題だが、1番ナイーブに関わらなければならない点だと常に考えている。自尊心を損なわずどう対応すべきか、今後も慎重に関わりたい 排泄の失敗が多い人が一人居られる。ADLが高い人なので難しい 失敗をしやすい人は1時間おきに排泄を促すようにトイレ介助をしている
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	曜日は決めず、ローテーションで間隔のあいている人を優先にし入浴を行っている。 又、拒否の多い方は声かけや時間を工夫している 入浴介助したことがない 何人かの利用者はそのタイミングに合わせて入浴させているが希望に沿っての入浴までは行っていない 入浴拒否の多い利用者にはタイミングや説得をゆくりと行う なるべく希望に添えるように 入浴前は必ずバイタルチェックを行う 体調不良や不穩が無ければどうしても順番になってしまう せめて入浴時は楽しんで頂きたいと努力している 現在は週2回入浴日がある	6人	現在は14～16時頃にかけて3名の入浴をしている。季節の柚湯・しょうぶ湯をしている。 自立している利用者は自由な時間、好きなとき入浴できればの思いはあるが(もちろんPMとかAMとか)これは理想で無理かも タイミングに合わせている
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	自室に居る時も常に意識を持ち、声かけや見守りを行い安心して過せるよう気をつけている 傾眠している時とかは、タオルを置いたり、無理に起こさないようにしている 生活習慣 時々体調状況に合わせて気持ち良く休息眠れるよう工夫支援している 居室で休まれたり入眠されるときは不安を無くし声掛けなどで安心して頂く様になっている 自由に居室で休息できる フロアで傾眠された時は声掛けし居室に誘導する 夜「眠れない」という利用者にはしばらく付いて入眠するよう誘導する	5人	個室のために出来ているし支援もある 個室なので安眠・休息出来ている
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	好みを見つけ対応しているつもりだが、まだ不十分(昔からの特技や「何かしてあげたい」と思ったださる気持ちを大切にしているつもり) 料理が得意な人には食事の支度等 生活歴に合わせてその人の力を活かした出来る事を重点的に見出し役割を持たせた支援を行っている(台所手伝い、洗濯物たたみ、食器拭きなど) 季節ごとの行事 歌・ゲーム・思い出話ビデオ鑑賞等で楽しんでいただいている 利用者から皆の為、職員の為に協力しようとする意思が伺われる	4人	役割...洗濯物をハンガーに掛ける・たたむ、茶碗を洗う・拭く、ご飯をよそる、調理をする
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の力に応じて対応していると思う (現在自分で持ちたいと希望して持っている人は1名しかいない) いつでも本人の希望にそって買物やお金所持や使えるように支援・工夫する 大金ではないが個々に所有している 不知	4人	お金を持ちたい方には所持したり、使えるようにしている もっと自由な外出や買物が出来ればと 一緒にお店に行って日常品等購入する人もいる
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日は散歩や外気浴誘うようにしている 又希望時なるべく叶えられるよう時間を作っている 時節の良い時は外でお茶をし楽しんでいる 近くのスーパーに買物、散歩に行っている 施設の中で過ごす時間が多く個々の希望に沿っての戸外に出かけられる支援がなかなか出来ない(高齢・身体的低下者が多い為) 一人1人の希望は無理なのでなるべく少しの時間でも散歩できるようにしている	7人	努力はしているが、まだ不十分。もっと天気が良い＝外の空気を吸いに行くという意識が定着したらと思う(強制ではない) 買物に行きたいと希望のある人はお連れする 出来れば天気の良い日は週2～3回は散歩に行き日光浴も試みたい 天気の良い日は庭に出てお茶・おやつ等食べるようにしている
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	今年は誕生日会を個別対応(個別プラン・本人が行きたい場所)とし、外出の希望がある方は、出来る限り叶えられるよう努力している 個別対応にて家族を交えた外出、子供達との外泊、誕生日職員、家族同伴での外出等出かける機会を作っている 不知	6人	それ以外にも外出の機会は増やしていきたい 誕生日などに合わせ、家族も含め外出する 誕生日には希望を聞いて好きな場所へ家族と一緒に外出する

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63 電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	今のところそういった希望があまりない。しかし聞かれた時は否定せず受入れサポートするようになってきていると思う。本人の希望に沿ってその時々事務所を通して本人自ら電話や手紙のやり取りを行っている。実施している。数は多くないと思うが一部の利用者は出来ている。出来ていない。入所している妻から夫へ素晴らしい愛情のこもった手紙を書き、夫からも心のこもった返信が来た事を見ている	3人	利用者の希望に合わせている
64 家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	こちらから「来てください」といったアプローチはしていないが、来所された時にはゆっくりして頂けるよう気をつけている。居室で自由に雑談出来る様配慮。面会者には喜んで対応し(感謝の気持ちで笑顔の対応)、お茶等をだしている。自分の知っている利用者の様子を話してあげる。いつでもどなたでも自由に訪問出来るよう家族を通してお願いし居心地よく皆さんとの団欒が出来るように工夫している。気軽に訪問して頂き各居室にて楽しく過ごされている	5人	声を掛ける。茶を出すなど接点を作り、にこやかに対応している
65 身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	取り組んでいる。又毎月の会議で確認する時間も取られている。身体拘束をしないでケア出来るように細心の注意をはらい工夫しながら取り組んでいる。ベットの柵や車椅子での拘束を注意しながらケアしている。身体拘束はなく利用者は自由・気ままに生活されている	5人	拘束をしない。102歳の寝たきりの利用者も昼食時はフロアに、夏祭りは浴衣を着て会場に参加している。「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を理解してケアに活かしたい。寝たきりの利用者も昼食時はフロアで一緒に食事する
66 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	取り組み、今は鍵の使用はしていない。夜間以外は全ての居室、玄関等を開錠し利用者全員安全に過せるよう工夫注意している。見守りでケアしている。利用者が一人で外出しない様スタッフの声掛けを密にしフロアの見守りのケアに努力している	6人	居室は日中風通しが良く窓は開け網戸にしている。玄関・居室には鍵はかけていない
67 利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	無理に全員を集めるのではなく、その時に入居者の気持ち(1人で居たい等)に合わせて対応している。又1人で居室にいる時は小まめに声かけをする様子を見るなどしている。安定している人でも見守ってどこにいるか把握するようにしています。安全確認に常日頃努力し利用者の所在様子を把握・記録し、安全に配慮快適に過せるよう工夫している。さりげなく声掛けしトイレ介助等支援している	5人	フロアから職員が目が見えない様に声を掛け合っている。
68 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	今の時点では異食や収集癖のある方がいないので自然な形で生活感のある環境が出来ていると思う。食器類は割れにくい物を使いはさみ等は見守りながら使って頂く。洗剤類・漂白剤等は使用時以外は鍵を掛けている。包丁・洗剤など個々に合った保管場所を決め危険を防ぐ取り組みを行っている。管理者が保管される	5人	今後もそういった危険のある方が出てきた時もすぐになくすのではなく生活の場を守ったうえでの対応が出来ればと思う。洗剤・漂白剤等は使用以外は鍵を掛けている
69 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	起きた事は事故報告書とヒヤリハットに上げ毎月行う座談会で再発予防策などを検討し事故防止に努めている。薬は関わったスタッフが記録伝達転倒は見守り行動は声掛けし事故防止の努力をしている。転倒の防止、窒息、誤薬、行方不明等を防ぐ為の研修、防災訓練、状態に応じた対応に取り組んでいる。職員全員で常に声掛けをし事故防止に努める。転倒は近くで見守り、窒息は食事の飲み込み確認、誤薬は3度の確認とスタッフの声掛けで取り組んでいる	6人	同じ内容が何度かあがるという事もあるスタッフ一人1人の事故に対する危機感を見直すことも必要だと思う。タバコライターは預っている。手摺・食事形態・コミュニケーションをとりストレスをためない様にする。事故防止に取り組んでいる。私自身、転倒や年齢から来る骨のもろさや骨折について理解や認識ができていっていた事故防止の取り組みを重要な検討課題にする

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	内部研修での勉強会 内部研修や研修等で定期的に勉強している その都度勉強している 申し送りなどはあるが、自分は定期的に訓練はしていない 家族との連絡を密にし緊急時に対応するよう努めている 誤嚥時の道具の使い方緊急時の連絡方法や避難訓練をしている	5人	これからも継続して行いもっと知識技術を身につけていきたい 日々の活動日誌の中にも差し込まれている 応急手当や初期対応の訓練をする機会があると良い
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	利用者 職員で防災(避難)訓練を実施している 誘導の仕方等勉強している 消防署や公共機関・地域の方々への協力を施設を通してお願い確保されている 地域の協力には参加したことが無い	4人	地域との交流はまだ浅いためこれからも努力が必要だと思う 行事に近隣の方々にも参加していただくなど 介護施設なので、地域の協力を得ている
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	有難い事にご家族の面会が多いのでその都度状態を伝え(変化など)そのうえで本人にとって1番と思う対応をしていると思う 施設を通して家族等密に対応	4人	ヒヤリハット報告書・事故報告書もまめに記録する事になっている
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	管理者が看護師の為、変化があった時の対応が早いと思う 連絡を密に行う 体調の変化や異変を速やかに把握し速やかな連携の下に対応 個々の情報を共有している 体調の変化はその都度看護師に見てもらい、おくりもしている 見守り何か変化がある時は必ず他の職員と確認し、分からないときは管理者の意見を聞いて対応する 報告し記録や反省をし合い対応	5人	疥癬で大変なことになった経験からも、注意深く体調及び身体状況の観察をしている
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	スタッフが見やすい所に薬の種類、効果などを書いたファイルを用意し皆が理解できるようにしている 薬の目的・副作用・用法・用量等理解し服薬における症状や変化に注意し確認に努める ある程度の用法用量は知っているが副作用に関しては未だ勉強不足 連絡ノートに密に書かれている	7人	その効果があまり出ていない 常勤に確認して終わらせていることが多い。全スタッフがもっと薬の重要性や危険性を理解する必要があるように思う 服薬ノートがある。理解している 調整剤の様な物は状況により相談しながら対応する 管理者が記入してあるノートが常に見られる様になっているので良く確認してみたい
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	食前の体操や水分が不足しないよう気をつけている 牛乳、ジュース等での水分補給、便通に良い野菜の調理、毎食前の体操等身体を動かす事に取り組む 又浣腸などで対応 牛乳を飲んでもらう時もあります 水分補給には注意してトイレ誘導時も声かけしたりお腹をさすったりする事もあり 今までの本人の解消の仕方を大切にシダメな時は本人納得の上薬を服用する	6人	便秘になってからの対応になってしまう。朝食に牛乳や野菜ジュースを飲むなど生活の中でももう少し工夫していきたい 水分や野菜(根菜)、体操に心掛ける 水分補給や献立にも注意している 体を動かすことに
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	週に1回歯科往診。口腔内の掃除をする。夜は声かけや介助による口腔ケア 夜はしてもらいますが、他はご本人にお任せしています 起床後、夕食後口腔ケア 就寝時食後の口腔状態、個々の力に合わせ歯磨き、口腔清掃、緑茶でのうがい等 支援 声掛けしながら時には介助、歯科往診時に見ていただいている 本人が毎食後行う方もあり、他の方は夜の口腔ケアが多い 専門医に指導を受けている	6人	毎食後は行えていない。うがいだけでもしていけたら先ずお茶を飲むこと、口腔を洗う。週に一度の歯科往診 利用者も毎食後出来たら気持ちが良いと思う 出来るなら昼食後も口腔ケアを実行していきたい 食後は口腔ケア 週に1度、歯科往診

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士によるメニュー作りと食事量チェックを行い変化には留意している。水分も摂取量の少ない方はinチェックをし特に注意するなど配慮している 入浴後などは必ず水補に注意している 自由に利用者が飲める様心掛けている 水分補給の時間が決まっている方には時間通りに、あとの方はこまめに声かけしている 起床後の水分補給、自分で摂取出来ない利用者個々に表を付け1日の水分量を確保、本人の希望を希望等取り入れジュース、珈琲、紅茶用意し本人の要望に努める ミキサー食等も	6人	不安のある人は(食事・水分)量を記録している
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	マニュアルが作成されている 又特に注意すべき期間には必要な情報を掲示し注意を呼びかけるなどしている 感染症予防のマニュアルに沿って実行している。インフルエンザ等は予防接種を年1回施設全体で行っている 外出時、トイレ後、食事前など手洗いや消毒を実行している 時節によりマスク着用	6人	個室対応(利用者)・面会者には(冬場)マスク、消毒、予防接種、予防着、手袋
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食中毒の勉強会の実施。調理担当を中心に行っていると思う 朝・昼・夜 フキン、台フキンは消毒を行い、夜はまな板などキッチン道具を消毒している 毎日の買物1食毎の残菜処理、熱処理、夜間の台所用具の消毒処理管理、冷蔵庫の温度調整、消毒等に勤めている 食材は新鮮な品を使用、冷凍・冷蔵の管理を行っている 食中毒予防の講習を受け内部研修で報告	6人	冷蔵庫、冷凍庫の温度管理(調理器具、フキン)消毒、ハンドペーパーの利用 調理器具・布巾の消毒
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	建物の隣(敷地内)に足湯があり地域に開放している 安心していつでも出入りできるように足湯等の利用者も自由に見学できるような開放づくりに努めている 花や金魚はいつもあって癒されている お花を植えたり行きかう人と挨拶をかわし顔見知りの方も増えている 玄関前にベンチを置き季節の花々を觀賞できるように工夫している	7人	ご家族にとっては十分出来ていると思う しかし地域との交流を深める為には努力が必要 方法は模索中 花鉢、ベンチを置いてある 外には季節の花壇、室内には生花が活けてある
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	音楽は入居者にとって馴染の音楽や心地良いものを取り入れ、お花や装飾により季節を感じられるよう工夫されている 花壇作り、季節の花を飾り壁面の空間の貼り絵等の飾り、金魚の飼育等工夫している 食時の時にはカーテンを閉めトイレのドアが見えないようにしている 毎日の掃除の実行 これ以上の共有空間はないと思える もう少し広げればとも思うが賢沢	6人	浴室は良いが脱衣場の工夫が無い。他は良い 窓拭きなどはなかなか出来ずに後回しになってしまう為、早めに来れる様に努力したい
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	皆で過せるテーブル席と、ゆっくりテレビをみられるソファ席があって自由に座れる 共有の空間に大テーブル、リビングセットを備え利用者同士又は一人で過せる場所を作っている ソファに座って沢山の方とも談話をされている 喧嘩をする時もたまにある	6人	入居者が思い思いに過していると思う。しかしスタッフ対入居者が多いので、入居者対入居者が心地よいと思えるような関係・場面作りのサポートが出来ればと思う ソファ・フロアテーブル等

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自分の希望を言える方にはそれを出来る限り叶えられるように、言わない方にはご家族の協力を得ながら少しでも居心地がいいと思える空間になるよう努めている 本人家族と話し合い本人のお気に入りの家具、使い慣れたTV,CD等居心地良く生活出来るように工夫している 写真(若い頃の、家族の)が飾られている 居室の掃除は出来ているが細かな部分まではなかなか手が回らない	4人	それぞれ工夫はあるが、居室に一人でいない人が多い 管理者より細かな部分の掃除も言われているので出来るように頑張りたい 工夫されている
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	においは換気やお香をたくことで心地良いところになるよう努めている。又温度は入居者の様子や表情・言葉に応じて対応している 換気・空調に気を使い湿度調整窓の開閉消臭剤使用等状況に応じてまめに行う 利用者の希望でON,OFFにしている 年齢や体質により温度調整は差がありフロアは皆の意見を聞き、居室は利用者の意見に合わせている	5人	設備はある お香をたくなどしている 換気や温度調節は細やかにされている
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	これから状態が変化するにつれ、もっと必要なことが出てくるかも知れないが、今の時点では必要に応じ手すりの取り付け(以前なかったところに)など工夫していると思う (一人ひとりに合わせる事は出来ないが) トイレ・廊下安全を考慮手摺の設置、必要に応じての車椅子、ポータートイレ等の福祉器具で安全安心の自立した生活が出来よう工夫 本人に合った筋力トレーニングをPTによって作られた事を1日1度身体を動かしている	4人	手摺を増やすなどしている 手摺が多い
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	密な関わりをすることで混乱などはほとんど防げていると思う 出来る範囲で居室の整理清掃を見守り行えるような工夫をしている 新聞を読んで頂いたり、歌を歌ったり、音読を本人の意思で読まれたり、工作等にも参加して頂いている 利用者の混乱時にはゆっくりと対応し笑顔が戻るまで工夫する レクレーションを常時行う(リハビリ体操など) 得意のところをしていただいている	4人	しかし、今以上に出来る。分かる機能の見極めをし、一人一人の自主性を高めて行きたいと思う ほぼ全員が、職員のかかわる力や、その人なりの理解で混乱しないが、お一人だけ理解させる力が私達に不足し混乱した生活をしている
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	建物横の駐車場(きれいに舗装されているので)での外気浴、ティタイムなど活用している 外周りに花に水遣り球根の植付作業等草花の管理等利用者が出来る活動を工夫対応している 足浴又は庭に出て楽しまれる 足湯の傍のベンチに座り雑談しながら利用者達が楽しまれる事 ベランダでは内と外の自然の違いを感じて頂き、外周りは足湯になっている為散歩に利用している	5人	庭が広く外に誘導している 足湯をもう少し活用したい 外周りが広く散歩したりお茶のなどしている



. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に つけた人数です	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	5	ほぼ全ての利用者の
		7	利用者の2/3くらいの
		1	利用者の1/3くらいの
			ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	9	毎日ある
		3	数日に1回程度ある
		1	たまにある
			ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	7	ほぼ全ての利用者が
		4	利用者の2/3くらいが
		2	利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	7	ほぼ全ての利用者が
		6	利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		ほぼ全ての利用者が
		4	利用者の2/3くらいが
		6	利用者の1/3くらいが
		2	ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	11	ほぼ全ての利用者が
		2	利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	11	ほぼ全ての利用者が
		2	利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	7	ほぼ全ての家族と
		5	家族の2/3くらいと
			家族の1/3くらいと
			ほとんどできていない

無記入：  
1

無記入：  
1

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。		
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	3	ほぼ毎日のように	無記入: 1
		3	数日に1回程度	
		5	たまに	
		1	ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		大いに増えている	無記入:4
		9	少しずつ増えている	
			あまり増えていない	
			全くいない	
98	職員は、生き生きと働いている	7	ほぼ全ての職員が	
		4	職員の2/3くらいが	
		2	職員の1/3くらいが	
			ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	5	ほぼ全ての利用者が	
		7	利用者の2/3くらいが	
		1	利用者の1/3くらいが	
			ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	8	ほぼ全ての家族等が	無記入: 1
		4	家族等の2/3くらいが	
			家族等の1/3くらいが	
			ほとんどできていない	

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

"その人らしさ"を大切に、入居さん達が心地よく安心して生活できるように日々努力している

生活の安心・安全・楽しみ

レクリエーションで外気浴・足湯で利用者こんな事あんな事がしてみたいなど話し合い、次はガーデンティにしましょうと話し合う事も一つの楽しみ

足湯があり地域との活性化が図れる

職員の介護に対する思いが深い

職員として日が浅い為、今回は「不知」とさせていただきます